

機関番号：34424

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520282

研究課題名（和文）

日本・イギリス・フランスにおける絵本の国際比較研究

研究課題名（英文）

Cross-national research into picture book in Japan and Britain France

研究代表者

加藤康子 (KATOU YASUKO)

梅花女子大学 心理こども学部 教授

研究者番号：60299005

研究成果の概要（和文）：

近年、絵本研究は進んだが、国際比較研究は未だ十分とは言えない。そこで、「狐」「イソップ寓話」という観点から、日本、イギリス、フランスの絵本を比較研究した。まず、各国のイソップ寓話受容と絵本化の流れを確認し、狐が中心となっている話をめぐって、挿絵や絵本作品を収集し、比較分析を行った。結果、イソップ寓話の受容は、各国の文化事情を反映して異なっていることが分かった。日本では、外国からの文化導入に特徴が見出される。このように、三ヶ国の挿絵や絵本には、その国情、文化、画家の個性が色濃く反映していることを確認した。

研究成果の概要（英文）：

Recently, the cross-national research cannot be said still enough though the picture book research wended. Then, the picture book of Japan, Britain, and France was comparing researched from the viewpoint "Fox" and "Aesop allegory". First of all, the Aesop allegory in each country receipt and the flow of making to the picture book were confirmed, the cut-in illustration and the picture book work were collected over the story that the fox was centered, and the comparison analysis was done. The receipt of the result and the Aesop allegory reflects cultural circumstances in each country and it has been understood to be different. The feature is found to a cultural introduction from the foreign country in Japan. Thus, it was confirmed to the cut-in illustration and the picture book in three countries to reflect the conditions of a country, culture, and painter's individuality dark.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	1,000,000	0	1,000,000
2007年度	900,000	270,000	1,170,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,300,000	690,000	3,990,000

研究分野：人文科学

科研費の分科・細目：文学

キーワード：絵本 狐 イソップ寓話 児童文学 挿絵 伊曾保物語 擬人化 ラ・フォンテーヌ

科学研究費補助金研究成果報告書

1. 研究開始当初の背景

近年、絵本研究が進む中で、国際比較研究は未だ十分とは言えない。梅花女子大学では児童文学の研究・教育を行ってきた児童文学科に、絵本に関心を持つ研究者が英語圏（イギリス）、仏語圏（フランス）、日本（近代以前）におり、これまでもイソップ寓話を素材とした挿絵を持つ作品や絵本に関心を寄せていた。互いの情報交換の中で、今回の研究を開始することとした。

2. 研究の目的

近年、絵本研究が進む中で、国際比較研究は未だ十分とは言えない。そこで日本、イギリス、フランスの絵本を比較研究することを目的とした。

3. 研究の方法

共通する観点として「狐」「イソップ寓話」を取り上げることとした。各国のイソップ寓話受容と絵本化の流れを確認し、狐が中心となっている話（「狐と烏」「狐と鶴」「井戸に落ちた狐」「狐と獅子と狼」）をめぐって、挿絵や絵本作品を収集し、比較分析をする方法を取った。資料収集では、各国の図書館や書店等での調査も行った。

4. 研究成果

イソップ寓話の受容は、日本、イギリス、フランスにおいて、各国の文化事情を反映して異なっていることが分かった。日本では、室町末期と明治初期の2回の受容があり、前者では、次第に日本的な物の考え方を踏まえた教訓解釈、日本的な擬人化などを含めた挿絵の導入や絵本化が見られる。一方、明治以降は外国、殊にイギリスからのテキストをそのまま翻訳し、英語教育の教材として多様に出版されたが、明治後期、大正・昭和期には、家庭読み物、絵本として、擬人化などに日本的な表現を工夫していく作品が見られるようになる。この過程の中で、外国からの文化導入の日本的な特徴が見出される。

一方、イギリスでは、イソップ寓話の受容の中で、イギリス化して変貌させるのではなく、受容の形を残す傾向が見られる。また、教科書的に多くのイソップ寓話を収める構成を持つテキスト、博物誌的な挿絵なども特徴的である。フランスでは、ラ・フォンテーヌの訳文が定着すると現代まで文章は変化せず、画家の個性を最大限に活かした挿絵や絵本が今日まで、多様に描かれて来ている。

このように、三ヶ国を限られた観点から比較しただけでも、挿絵や絵本には、その国情、

文化と画家の個性が色濃く反映していることが確認された。また、日本的な表現や文化の導入の仕方には、独自の傾向があることが推定された。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計13件）

- (1) 加藤康子、こども絵本を考える—江戸期絵草紙からの視点—、日本文学、1月号、2010、21-30
- (2) 三宅興子、イソップ寓話における図像の移植とその日本化—『通俗伊蘇普物語』と「金の斧 銀の斧」を題材として—、図説翻訳文学総合事典、査読無、5巻、2009、271-293
- (3) 加藤康子、江戸期の絵草紙と伝承、梅花児童文学、査読無、17号、2009、1-16

〔学会発表〕（計2件）

- (1) 加藤康子、特集児童文学の研究の現在 江戸期絵草紙の魅力、国文学 言語と文芸の会、2009.7.18、東京文化会館

〔図書〕（計7件）

- (1) 高岡厚子、他、大阪大学出版会、フランスの子ども絵本史、2009、424
- (2) 三宅興子、他、翰林書房、大正期の絵本絵雑誌の研究—少年のコレクションを通して—、2009、369

〔その他〕

研究報告書『平成18～21年度科学研究費（基盤研究（C））報告書 日本・イギリス・フランスにおける絵本の国際比較研究—「イソップ寓話」をめぐって—』を2010年3月31日付けで発行した。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

加藤 康子 (KATOU YASUKO)
梅花女子大学 心理こども学部 教授
研究者番号：60299005

(2) 研究分担者

三宅 興子 (MIYAKE OKIKO)
梅花女子大学 名誉教授
研究者番号：80166131

高岡 厚子 (TAKAOKA ATUKO)

梅花女子大学 名誉教授
研究者番号：30107122